

# 小島西遺跡出土の鳥類遺体について

江田真毅(北海道大学総合博物館)・山川史子

## はじめに

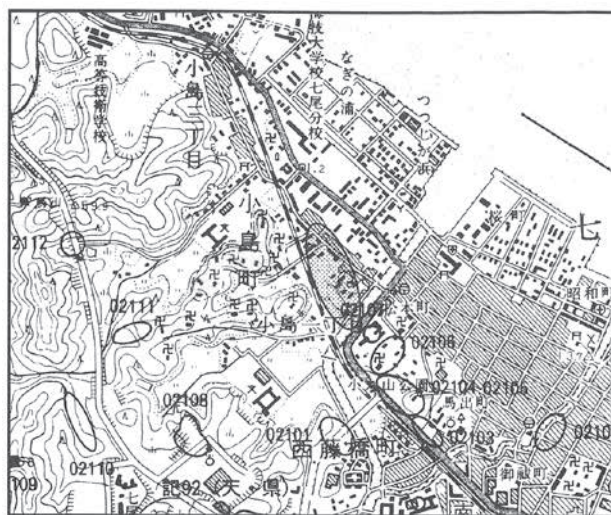
石川県七尾市小島西遺跡は能登半島の七尾湾岸にあり、小丘陵に背後を囲まれた谷内から谷口にかけての平野部に位置する。埋め立てにより遺跡は現海岸線から500mほど離れているが、貝層出土の貝類の分析から、縄文時代後晩期には海であったことがわかっている。その後、谷奥からの土砂の流入などもあり、古代以降においては遺跡に近接して汀線が位置していたものと推定される。

同地は縄文時代晩期、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世と断続的に長期間にわたり利用された場所であるが、特に8世紀～9世紀にかけて大量の木製祭祀具を使った律令的祭祀が行われていた点が注目される。斎串や人形などの木製祭祀具は大型品が多いことが特徴である。また、イノシシ頭蓋骨が同一層から出土し、多量に出土したモモと共に祭祀に利用されたものと考えられている。木製祭祀具を使用した祭祀は、古代から中世初頭にかけて長期にわたって執り行われており、その規模や継続性から、能登国府あるいは香嶋津に付随する祭祀場であったと推定されている。中世(16世紀)～近世にかけては集落が継続して存在し、建物や井戸、土坑の他、道路も確認されている。廃棄土坑や井戸跡から当時の食生活をしのばせる魚骨類や種実類が出土した。

発掘調査は平成14(2002)年、15(2003)年、16(2004)年と3ヶ年にわたって実施され、平成20(2008)年3月に発掘調査報告書が刊行された。動物遺存体については、パリノ・サーヴェイ株式会社が同定、分析を行っている。その結果、古代の遺構から、イワシ類・スズキ類・タイ類などの魚類、鳥類、アシカ・イヌ・イノシシ・ニホンジカ・ニホンカモシカ・ウマ・ウシなどの哺乳類が出土した。中世～近世とされる遺構からは上記の種類以外にニホンザルやイルカも出土したが、古代ほどの出土量はない。鳥類の可能性のあるものについては6点報告されているが、うち1点は魚骨とみられ、今回5点の鳥類を対象に再検討を行った。

## 資料と方法

資料はすべて発掘調査中に視認され、ピックアップ採取されたものである。資料の帰属年代は、古墳時代～中世が1点、奈良～平安時代(8～9世紀)が1点、平安時代(11～12世紀)が2点、近世以降(16世紀末～)が1点である。資料は現生骨標本との肉眼比較で同定した。現生標本として、江田(EP)の所蔵標本を利用した。骨の部位の名称はBaumel et al(1993)および日本獣医解剖学会(1998)に、分類群名は基本的に日本鳥学会(2012)に従い、同書で言及されていないカモ科の亜科や族の分



遺跡の位置 (S=1/25,000)

類は Winker et al. (2015) に従った。各資料について骨の表面の粗さと骨端の癒合状態に基づく成長段階、産卵前後のみ雌鳥の骨中に二次的に形成される骨髓骨の有無、解体痕と加工痕を記載した。

## 結果

分析対象とした5点中3点で科以下を単位とした同定ができた(表)。確認された分類群はガン族、アビ科、アホウドリ科である。ガン族と同定した資料(標本番号317)は近世に比定される溝から出土したものである。現生標本のマガン(EP-25)より少し小さい右足根中足骨の近位端であった。一方、アビ科と同定した資料(標本番号318)はアビ(EP-82)とほぼ同大の右脛足根骨、アホウドリ科と同定した資料(標本番号374)はアホウドリ(EP-97)よりかなり小さく、コアホウドリ(EP-130)とほぼ同大の右大腿骨骨体部であった。ともに平安時代に比定される包含層から出土した資料である。他の2点については破損のため鳥綱以下の単位での同定はできなかった。いずれの資料にも骨髓骨は含まれておらず、アビ科の脛足根骨が腱上橋の形成が完了していない若鳥のものであったのを除き、他の資料は骨幹の平滑な成鳥のものであった。また、ガン族の資料は全体が火を受けていた一方、いずれの資料でも解体痕や加工痕は認められなかった。

## 考察

今回の小島西遺跡出土の鳥類骨の再検討では、平安時代の包含層からアビ科とアホウドリ科、近世以降に比定される溝からガン族が確認された。アビ科はその大きさからアビの可能性が高い資料である。アビ科の鳥は石川県には冬季に訪れる(日本鳥学会2012)ことから、冬季に狩猟されたものと考えられる。一方、アホウドリ科はアホウドリの現生標本よりかなり小さく、コアホウドリあるいはクロアシアホウドリの可能性が考えられるものであった。現在、アホウドリ科の鳥はいずれの種も日本海の本州中部周辺に分布していない(日本鳥学会2012)ものの、石川県下の遺跡では他に高田遺跡(石川県羽咋郡志賀町富来高田地内・古墳時代)から報告されている(富来町教育委員会1999)。また、近県では管見の限り、富山県の小竹貝塚(富山市五福・縄文時代前期; 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2014、納屋内・松岡2017)、大境洞窟遺跡(氷見市大境字駒首・縄文時代中期～晩期; 氷見高等学校歴史クラブ1964)、境A遺跡(下新川郡朝日町境・縄文時代中期～晩期; 橋本1992)、および新潟県の浜端洞穴(佐渡郡相川町大字高瀬・古墳時代; 相川町教育委員会1969)でも報告がある。各遺跡から出土するアホウドリ科の骨はそれほど多くないことから、北海道北部や東部のように周辺海域に多数のアホウドリ科の鳥が生息し、頻繁に狩猟の対象となっていたと考えられる(Eda and Higuchi 2005)のとは様相が異なることも含め、生物地理学的な観点からも興味深い資料と言える。

近世に比定される溝から出土したガン族の資料は、マガンのほか、ハクガンやサカツラガンなどの可能性が考えられた。ガン族の骨は金沢城下町遺跡・丸の内7番地点からも検出されている(江田・山川2020)ほか、江戸の加賀藩藩邸であった本郷遺跡を含む江戸時代の遺跡からも頻繁に出土している(新美2008、江田2017)。当時の七尾においても同様に利用されていたことが窺える。加賀の元禄期の農作業の様子を描いた『農業図絵』(土屋1983)<sup>註)</sup>には、刈った稲束をあちこちに分散して干している情景の中にガンのような鳥が三羽いる場面がある。稲刈り後の時期にはガンが身近に飛来することが、当時は加賀のみならず、能登でも見られた風景と思われる。近世の人々にとっては身近な鳥の代表的なものだったのだろう。

註) もっとも原本に近い写本といわれる、石川県在住の櫻井氏所蔵のものが使用されており、原本の情報がかなり忠実に伝えられているとされる。

引用・参考文献

相川町教育委員会 1969「佐渡浜端・夫婦岩洞穴遺跡の調査」相川郷土博物館報6: 1-36

江田真毅 2017「加賀藩前田家本郷邸内における鳥類利用の時間的・空間的変遷—溶姫御殿に着目して—」『江戸藩邸と国元・金沢の近世食文化—動物考古学の研究成果から—』東京大学埋蔵文化財調査室編、東京大学埋蔵文化財調査室・加賀藩食文化史研究会、45-52

江田真毅・山川史子 2020「金沢城下町遺跡(丸の内7番地点) 出土の鳥類遺体について」石川県埋蔵文化財情報42: 33-35

(財) 石川県埋蔵文化財センター・石川県教育委員会 2008『七尾市 小島西遺跡』

土屋又三郎 1983『農業図絵』農山漁村文化協会

富来町教育委員会 1999『高田遺跡』富来町教育委員会

(財) 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2014『富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告60：小竹貝塚発掘調査報告10』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

納屋内高史・松岡廣繁 2017「小竹貝塚出土の鳥類遺存体(予報)」富山市考古資料館紀要36: 17-27

新美倫子 2008「鳥と日本人」西本豊弘編『人と動物の日本史Ⅰ 動物の考古学』吉川弘文館、226-252

日本獣医解剖学会 1998『家禽解剖学用語』日本中央競馬会、東京

日本鳥学会 2012『日本鳥類目録改訂 第7版』日本鳥学会、三田

橋本正春編 1992『北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編7 境 A 遺跡総括編』富山県教育委員会

氷見高等学校歴史クラブ 1964「大境洞窟遺跡」富山県氷見高等学校歴史クラブ編『富山県氷見地方考古学遺跡と遺物』富山県氷見高等学校歴史クラブ 20-22

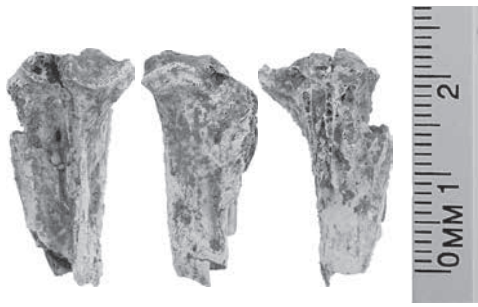
Baumel, J.J., King, A.S., Breazile, J.E., Evans, H.E., Berge, J.C.V. 1993. *Handbook of Avian Anatomy: Nomina Anatomica Avium*. Cambridge: Nuttall Ornithological Club.

Eda, M., Higuchi, H. 2004. Distribution of albatross remains in the Far East regions during the Holocene, based on zooarchaeological remains. *Zoological Science* 21: 771-783. DOI: 10.2108/zsj.21.771

Winkler, D. W., Billerman, S. M., & Lovette, I. J. 2015. *Bird Families of the World*. Barcelona: Lynx Edicions.

標本番号	報告書同定	出土地点	層位他	時代	小分類	部位	左右	部分	大きさの記載	備考
97	鳥類不明	D2区 G9b	下層3層	8～9世紀	同定不能	四肢骨		骨体部破片		
317	アホウドリ	C区 SD51b		近世(16世紀末～)	ガン族	足根中足骨	右	近位端	マガン(EP-25)より少し小さい	火を受けて白色化
374	コアホウドリ	H区	下層 030929 No.8 (骨)	11～12世紀	アホウドリ科	大腿骨	右	骨体部	コアホウドリ(EP-130)とほぼ同大	
381	カイツブリ	H区	下層 2ya層 031007	11～12世紀	アビ科	脛足根骨	右	骨体部～遠位端	アビ(EP-82)とほぼ同大	腱上橋の形成不完全
453	鳥類不明	G2区 SK19・20	崩落土	古墳～中世	同定不能	四肢骨		骨体部破片		

表 小島西遺跡出土の鳥類



標本番号 317



標本番号 374



標本番号 318

図 小島西遺跡出土の鳥類骨